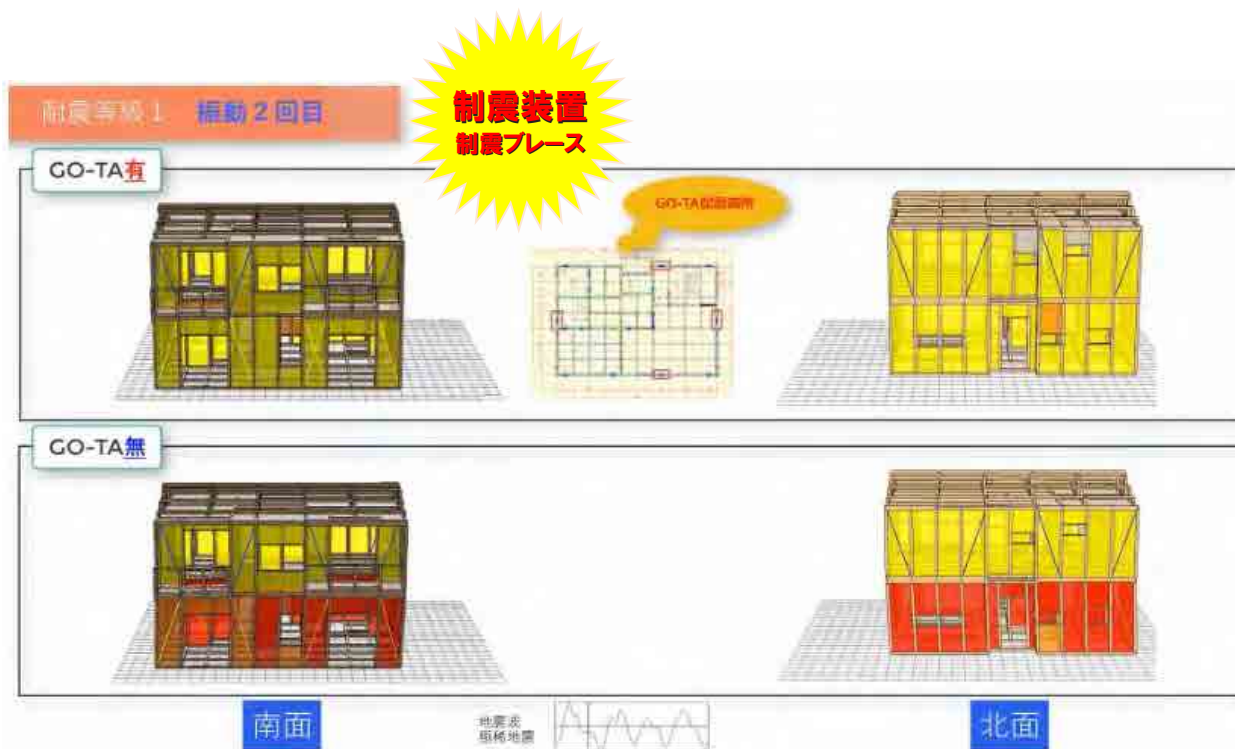


バージョンアップ版を11月にリリース ネットイーグル株式会社



今回のバージョンアップで「GO-TA」や「EQ GUARD」など制震装置への対応が可能になった

パソコン上で建物を3次元モデル化し、様々な地震動を与え、木造住宅の地震による揺れを可視化することができる耐震シミュレーションソフト「wallstat（ウォールスタット）」のこのソフトは建物が完全に倒壊するまで再現でき、建物のダメージや力の流れを可視化することで専門家でなくてもその住宅の耐震性能を理解することができる。

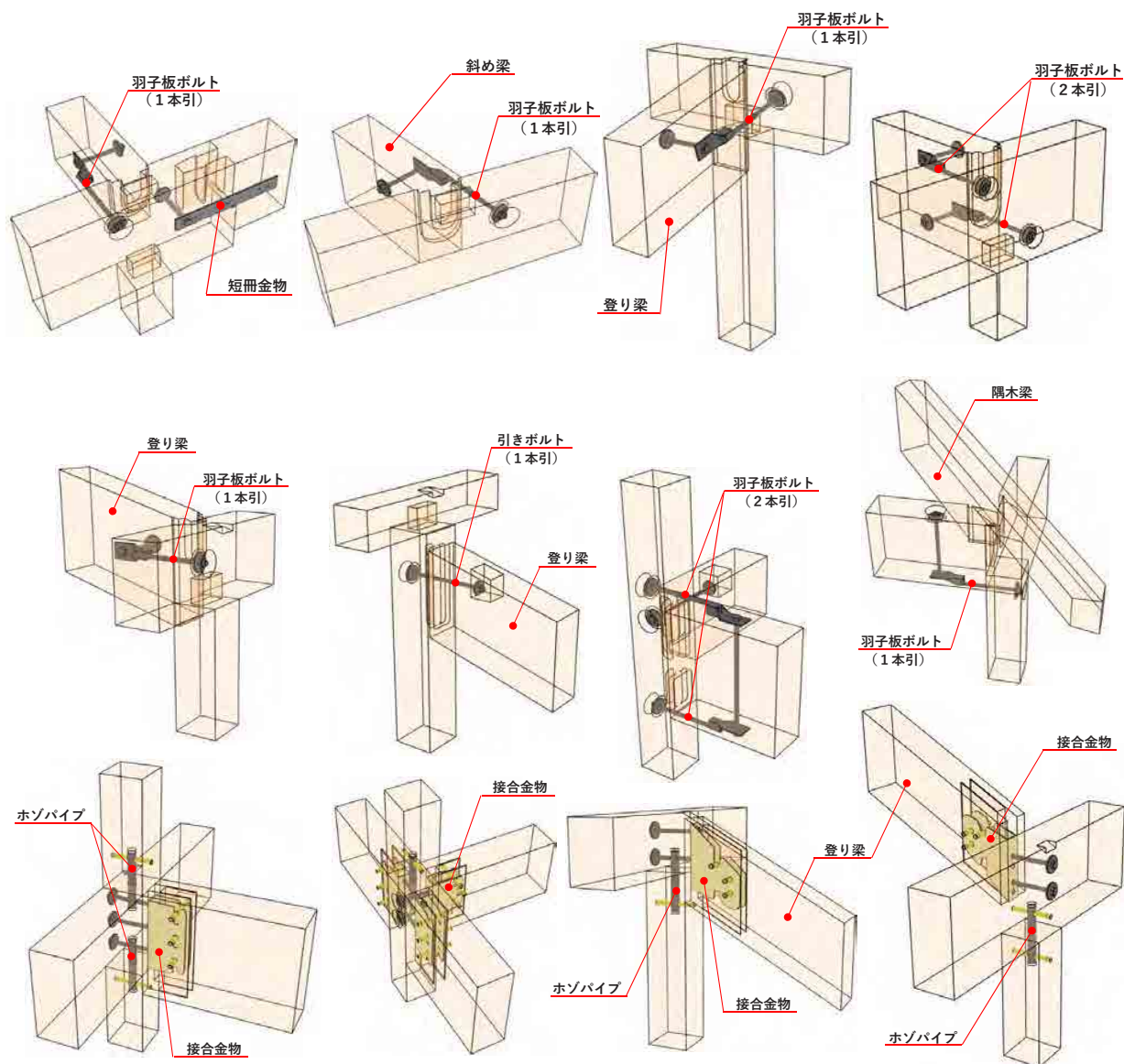
木造住宅のプレカットCAD/CAM大手のネットイーグル株式会社（福岡県福岡市、祖父江久好社長）は、2020年にリリースした「wallstat解析データ直結インターフェイス（以下、直結I/F）」に新たな機能を追加し、本年11月バージョンアップ版のリリースを開始した。直結I/Fは同社プレカットCAD「Xstar」で入力したCADデータを直接wallstatの解析データに出力するシステムで、再入力の手間なく倒壊解析シミュレーションが行える。

直結I/Fで出力される接合部強度は正確性を期す

るため（一社）耐震性能見える化協会（中川貴文代表理事）で認証された強度データ（在来工法については仕口・継手・羽子板ボルト・ホールダウン金物等の認証強度データ、金物工法については各種金物メーカーの認証強度データ）を使用している。

プレカットCADとwallstatの連動については、CEDXM（シーデクセマ）で受け渡す方法があったが、同社がプレカット業界初となる直結I/Fを開発したことで、より信頼性の高い倒壊解析シミュレーションが行えるようになった。

ネットイーグル株式会社によると、さらにソフトの完成度を高めるため、リリース後も（一社）耐震性能見える化協会の中川代表理事に継続してヒアリングを実施。その結果、当初の想定よりも多くの項目がwallstatへ変換できることが判明した。開発期間には約1ヶ年を要しているが、これらを反映させることで、より正確（信頼性が高い）な倒壊解析シミュレーションが行



バージョンアップにより多くの項目がwallstatへ変換できるようになった

えるようになり、今年11月2日にバージョンアップ版をリリースした。

主なバージョンアップが行われたのは変換内容の項目で、以下の通りとなっている。

- ◇「部材」カテゴリに「平柱」を追加
- ◇「構面」カテゴリの鉛直構面に「制震壁」を追加
- ◇「構面」カテゴリの水平構面に「床構面」「火打ち構面」「屋根構面」を追加
- ◇「接合部（在来工法）」カテゴリの横架材で「羽子板ボルト（2本引）」「引きボルト（2本引）」を追加
- ◇「接合部（金物工法）」カテゴリの横架材で仕口金

物の種類に「樹種 / 対梁 / 対柱（柱頭） / 対柱（途中） / 接合方向材厚み（平柱）」の条件を追加

◇「接合部（金物工法）」の柱・束で柱金物の種類に

- ①対梁、対柱（継手）、対土台、対基礎を追加
- ②柱位置：中間、出隅、半島（袖壁の先端）を追加
- ③スリット方向：東西、南北を追加

また、今回のバージョンアップにより、(株)タツミの制振ブレース「GO-TA（ゴータ）」と、BXカネシン(株)の制震装置「EQ GUARD（イーキューガード）」にも対応。ネットイーグル(株)のHP (<https://www.neteagle.co.jp/wallstat/#wallstat>) で制震装置の倒壊解析シミュレーション（動画）を公開している。